

五ノ新聞

08.10 No.137
発行 市岡映夫
行任
寄費 0883-88-5292

あの夏の日は、もう遠い昔のような
気温の変りよう。
ひと雨ごとに秋が訪れると昔の人は
言っていました。
本当にそうです。雨の雨を予守歌
として、草木はひと雨毎に眠りにつ
きはひめるようぞ。気がつけば色ざ
きはひめ、風もないのにヒューヒューと舞
う枯葉がめだちはひめていきます。
あつという間に夏休みが終つたと
あえば、九月になると運動会の
連続です。一週目の菅生小学校
にはひまり、四週目の落合小学校
まで、毎週のように元気な子供達
の大きな声が聞こえて来た。
と言つても、子供たちが四人とか五
人の小学校。多くとも二十人を在校
しない社谷の運動会ですがとこ

祭り運動会



～中津山 今年おの秋め

と工夫されていたり、一人一人が主役と
なれたり、地域のばあさん、じいちゃん
共に見守り技したりと都会では味わつて
ない運動会となっています。
とどかく、皆んなで運動会を挙げるので
とどかく、皆んなで運動会を挙げるので

栗枝渡(くりこし)地区は例外ではないが、声を
かけあい協力し合つて今年もお祭りの行事が備
え事が出来た。
昔は子供が多くて山車に乗るにも選りださ
なかつたようだが、今では、地区外の子供の協力を
て山車も引き出せる。
その山車、何と真左のように毛槍と神輿と踊り
出で、騒がかにお祭りが出来ました。
土日は、運動会やお祭りの九月までが、
の時期にやむを付けられないのは、肥田の草
刈りです。社谷のあつこうちにコエグロが建ち
はひめるのも九月です。
畑で、草が芽、ソバをはひめ様々な野菜を育
てるには、草をはひめ、草を刈る肥料にする
事をしないといふ収穫が悪くなるります。
時に、お祭りの一人暮らしの二人暮らしでは、
刈る事が重労働となります。
そこで、おのような定職のない者の出番とな
くるのですが、これが大変。
一日刈り払い機に使われますと、指がつかたり
痺れたりしてきます。
その山車、段々畑を守りには欠かせない仕事
です。昔の人達の遺言は、知恵を知る、こと
出来る、無言で教える山車にいるようぞ。
限界集落といふ何回も言うより、それを支える
努力と行動が求められます。



す。前日の準備の時から、先生、子供たち、
地域の皆さんと一緒にその役をこなしてい
くのびす。本当に皆んなで協力して運営
して行くのですから素晴らしい一言です。
祭りも、あつこうちで賑わいが建ちます。
こちらの方は、大変です。
元気がないお祭りがいなければお祭りの準備
もままならない。
昔、といつても数十人前までは、祭りが聞
こえて来る集落がどこにでもあつたけれど
今では、祭りの音が消えつつある。
弓や神輿、山車がくく相撲などおにぎ
りやかに催されていくけれど、もうほとんどの所
ではお祭りもなくなりつつある。

